

所在地 宮城県柴田郡大河原町字広瀬

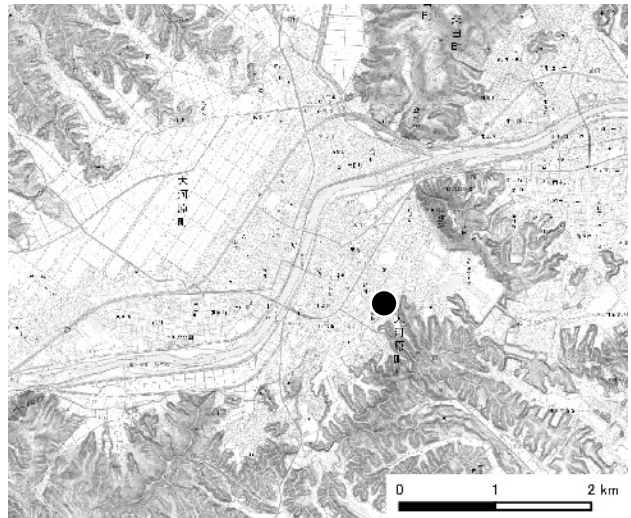
立地環境 白石川右岸の自然堤防上。標高 17m

発見遺構 基壇を有する礎石建物、雨落溝

年代 9世紀～10世紀前半

遺跡の概要

中屋敷前遺跡は白石川右岸の標高 17 m の自然堤防上に位置する（第 1 図）。1970 年代に多量の瓦および礎石、掘立柱建物柱穴が発見された（大河原町 1980）。その後、1991 年の調査では寺院跡とされる 3 棟の礎石建物が検出された（宮城県 1992）（第 2 図）。いずれも凝灰岩の切り石列を伴う基壇を有する。規模は表の通りである。



第 1 図 中屋敷前遺跡の位置

第 1・3 号建物では礎石が残存するものもあり、長軸 1.2～1.5 m の据穴に拳大の礫を充填し、その上に 1 m 程度の自然石を据えていた。第 1 号建物は大型の四面廂建物で、同じ位置で 1 度建て替えられており（1a→1b）、基壇周囲に雨落溝が巡る。第 2 号建物は柱筋を第 1 号建物と揃えており、建物の周囲は砂礫によって舗装されていた。第 3 号建物は第 2 号建物より新しく、一回り大きく作られている。第 1b・3 号建物周囲の雨落溝の底面には十和田 a 火山灰が混じる層が堆積し、雨落溝は焼土に覆われていた。

以上より、本遺跡は建物の構造や規模から寺院跡である可能性が高く、第 1 号建物は金堂に相当するとされる（宮城県 1992）。少なくとも 10 世紀前半葉に建替えが行われ、その後火災で焼失した可能性が高い。

出土遺物について

本遺跡で出土した瓦は軒丸瓦 2 種・軒平瓦 1 種・丸瓦・平瓦・隅切瓦・熨斗瓦である。出土遺物は小川淳一氏、森貢喜氏および筆者らが再整理を試みており、2022 年 7 月・10 月に大河原町教育委員会のご協力のもとで実見を行った。遺物の詳細は別に報告するため、概要を示す。

軒丸瓦は 2 種類ある（第 3 図）。A は弁端が 3 つに割れた四弁からなり、竹筥による装飾が施される。花卉間にはリボン状の高まりがあり、外側には太い圈線が巡る。A の文様については多賀城の宝相華文との関連が指摘されている（佐川 2001）。一方、四弁の構成は多賀城周辺ではほとんど認められず、腰浜廃寺や福島県沿岸部で見られる有蕊弁蓮華文軒丸瓦に類似する。B は多賀城Ⅳ期の八葉陰刻花文あるいは歯車状文に類似するもので、大きな中房とハート形の花卉が特徴である。丸瓦は有段のもので、外面の縄タタキ痕跡はナデ・ケズリ調整によって丁寧に消されている。

軒平瓦は瓦当面に先端が 2 つに割れた花卉を縦方向に配するものである。顎部と平瓦部との境は段状になるものと緩やかに繋がるものがあり、狭い顎面には波状の沈線が施される。この平瓦はいわゆる「包み込み技法」（接合式）によって瓦当面と平瓦部を接合している。即ち、瓦当面の裏面に平瓦を当てた後、平瓦を包み込むように粘土を付し接合する。この手法は多賀城跡では認められず、福島県沿岸部の泉官衙遺跡、郡山五番遺跡、大宰府など全国的にも限られた地域でのみ認められる（栗原 1999、佐川 2000、藤木 2005）。福島県の例は 8 世紀代のため本遺跡との関連は不明であり、「包み込み技法」が新羅系の技術とされていることから（佐川 2000）、その評価は今後の課題となる。なお、縦方向に花卉を配置する文様は東北地方では珍しく、福島県沿岸部の入道迫窯跡とその供給先である

植松廃寺跡に類例があり、影響が指摘されている（佐川 2004）。平瓦は一枚作りで、凹型台の痕跡を残すものがある。凸面は縄タタキである。

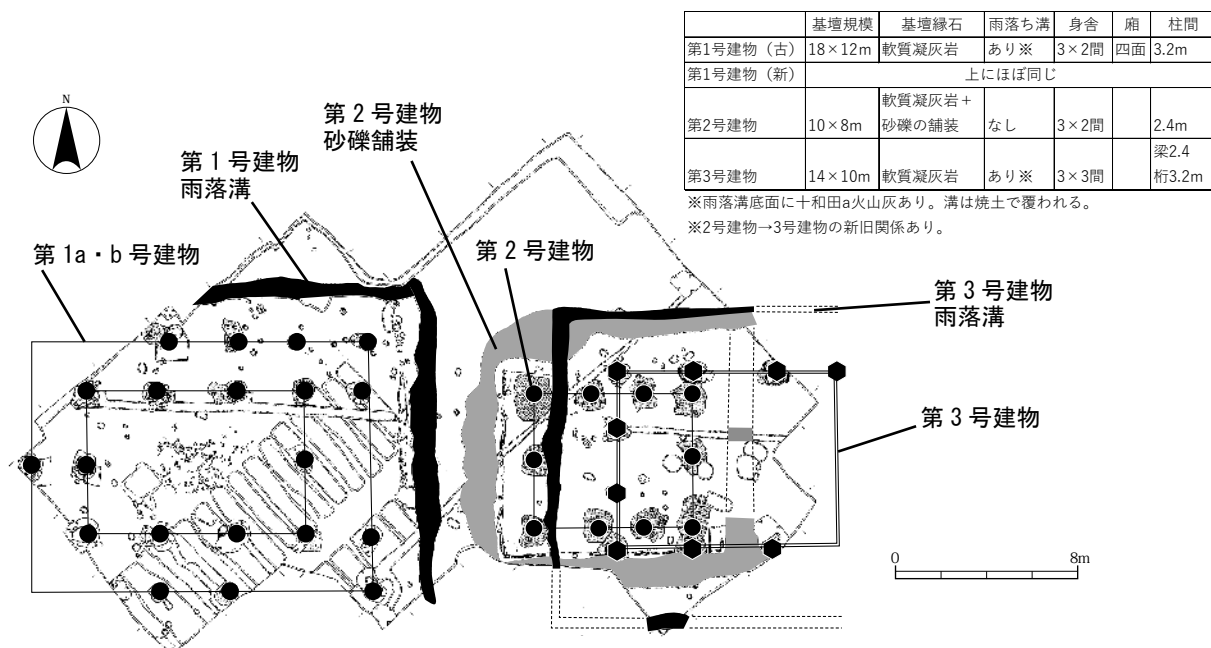
本遺跡で出土した土器は内（外）面黒色処理土師器杯、須恵器杯、須恵系土器杯、土師器甕、および線刻のある須恵器の椀とそれに伴う可能性のある蓋がある。いずれもロクロ（回転台）を利用して成形されているが、9世紀前半代から10世紀までの土器が認められる。蓮弁をへう描きした須恵器椀は体部のみの残存であるが、遺跡の性格に関わる重要な遺物である（第4図）。また、蓋には多重の沈線で何らかの文様が施されるが、詳細は不明である。

謝辞 以下の方々よりご教示頂きました（五十音順、敬称略）。

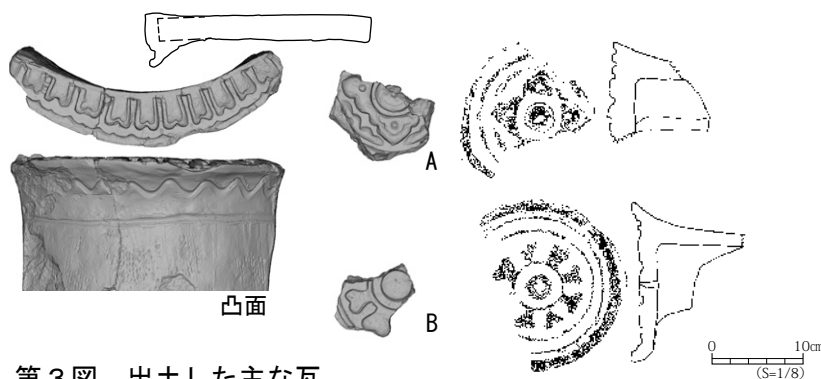
小川淳一、亀田修一、佐川正敏、椿野智之、藤木海、森貢喜、谷津愛奈、吉野博美

関連文献

- 1 大河原町教育委員会 1980『大河原町の文化財』
- 2 栗原和彦 1999「大宰府出土の9・10世紀の平瓦」『瓦衣千年』
- 3 佐川正敏 2000「陸奥国の平城京式軒瓦六二八二～六七二一の系譜と年代―宮城県中新田町城生遺跡と福島県双葉町郡山五番遺跡・原町市泉廃寺―」『東北文化研究所紀要』32号
- 4 佐川正敏 2001「平安時代前期陸奥国・出羽国の宝相華文軒丸瓦の研究」『東北文化研究所紀要』33号
- 5 佐川正敏 2004「福島県原町市泉廃寺跡出土瓦が語る古代行方郡衙郡寺の様相」『東北学院大学東北文化研究所紀要』36号
- 6 宮城県教育委員会 1992「中屋敷前遺跡」『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第146集
- 7 藤木海 2005「泉廃寺跡出土の植物文軒先瓦の変遷」『古代東国の考古学』

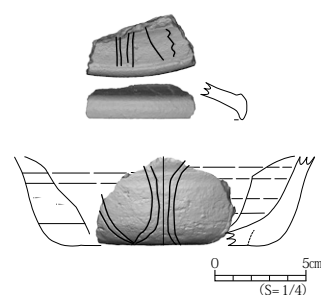


第2図 礎石建物の配置（文献6に加筆）



第3図 出土した主な瓦

（3D オルソ画は筆者計測、拓本は文献6）



第4図 線刻のある椀と蓋
（筆者計測）

大河原町教育委員会所蔵